

## 第 63 回粘土科学討論会

### 特別企画「日本粘土学会におけるダイバーシティ推進」開催報告

鈴木憲子（昭和薬科大学）、手束聡子（千葉科学大学）、小口千明（埼玉大学）

2019年9月10日、埼玉大学で開催された第63回粘土科学討論会において、特別企画「日本粘土学会におけるダイバーシティ推進」が開催されました。埼玉大学副学長堀田香織氏による特別講演、大阪大学丸山美帆子氏によるショート講演、本会会員によるアンケート結果およびパネルディスカッションの4部で構成され、多くの会員の方のご参加をいただきました。ダイバーシティ推進の中でも、男女共同参画に主眼が置かれた向きもありましたが、堀田先生のご講演ではその全体像、特に組織としてどう問題を解決していくかについて考えさせられる点が多々ありました。また、丸山先生のご講演はご自身の経験

に基づく内容で、真剣に聞き入っている女子学生の姿が印象的でした。当初「パネルディスカッションは成り立つか」ととても心配をしていたのですが、うれしいことに杞憂に終わりました。年齢、男女、産学官問わず、多くの意見が交わされ、パネラーの先生方からも貴重なご意見を頂きました。

「学会では学術討論だけすればよい」とのご意見も会員の中にはありました。その方の研究環境はこのような問題を考える必要がない理想的なところなのかもしれません。しかし多くの場合、多様性に関して不都合がおこるのは、特別講演でもありましたように「無意識のバイアス」がかかるからだと思います。私たちはそれを認めることが大切です。粘土科学を研究する全ての方が、十分にその力を発揮し社会に貢献するため、開催後のアンケートで多くの方が賛同してくださったようにこの活動を積極的に継続していきたいと考えています。

第63回粘土科学討論会 特別企画  
日本粘土学会におけるダイバーシティ推進

2019年9月10日(火) 13:00~14:50  
全学講義棟301教室

---

研究者・技術者の労働環境やワーク・ライフ・バランスを整えつつ、仕事としての研究開発を進めていくためには、ダイバーシティ推進を考慮して取り組む必要があります。昨今、積極的にダイバーシティ推進に努めている団体が成長（発展）している事例をしばしば目にします。日本粘土学会においても、会員の置かれている状況を把握し、より良い研究環境を目指すことは、個々の会員のみならず、学会そのものの発展にも結びつくものと考え、第63回粘土科学討論会においてダイバーシティ推進に関する企画を開催します。



---

【プログラム】

13:00~13:10 **挨拶** 山崎 淳司氏（日本粘土学会会長、早稲田大学）

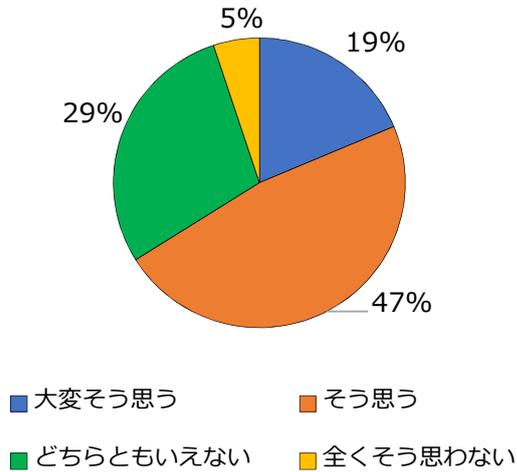
13:10~13:50 **特別講演「埼玉大学におけるダイバーシティ推進の取り組み状況」**  
講師 堀田 香織氏（埼玉大学副学長、男女共同参画担当）

13:50~14:10 **ダイバーシティ推進に関するアンケート結果の報告**  
手束 聡子氏（千葉科学大学）

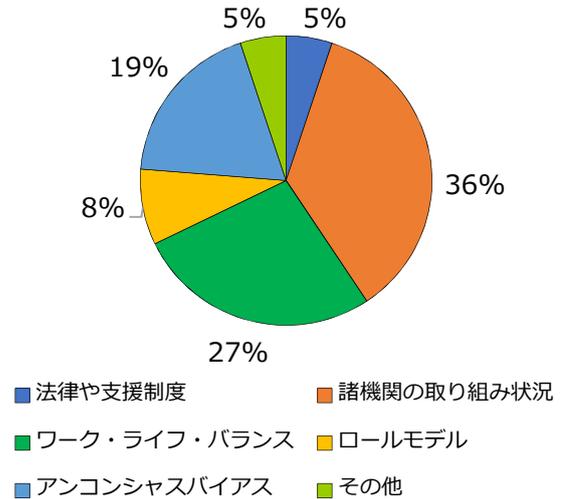
14:10~14:50 **パネルディスカッション  
日本粘土学会におけるダイバーシティ推進について考える**  
パネリスト：丸山 美帆子氏（大阪大学）（招待）  
佐藤 努氏（日本粘土学会常務委員会委員長・北海道大学）  
江口 美陽氏（物質・材料研究機構）  
井上 紗織子氏（東京大学）  
コーディネーター：後内 貴胤氏（昭和KDE(株)）、鈴木 憲子氏（昭和薬科大学）

【開催前のアンケート結果(回答数 59)】

◎ダイバーシティ推進企画の必要性

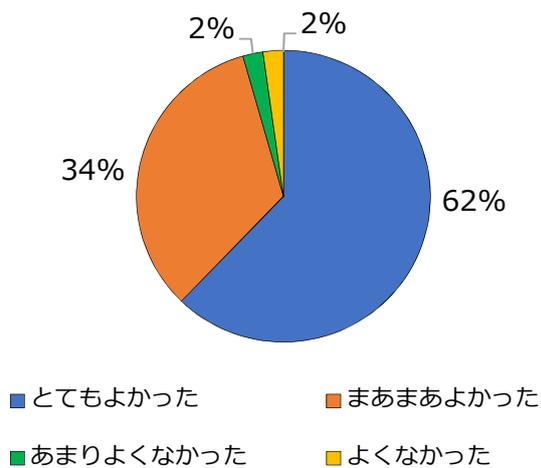


◎取り上げて欲しい講演のトピック

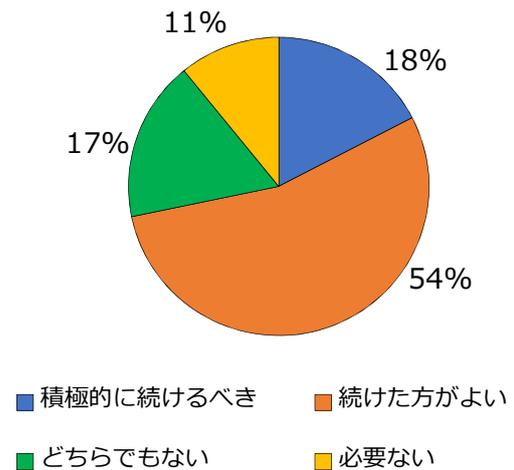


【開催後のアンケート結果(回答数 47)】

◎企画全体の評価



◎企画継続の賛否



## 【開催後のアンケート自由記述より抜粋】

- ❖ 所属する大学の取り組みについて再考する機会となりました。普段研究しているだけではこの問題について積極的に触れる機会が限られるので、都度取り上げる努力が必要かなと思います。
- ❖ 非常に学ぶことが多かった。
- ❖ 「女性だけの問題では無い」という指摘が良かったです。
- ❖ 男女共同参画関係に限らず続けた方が良い。
- ❖ 今後、男女雇用機会などの今回のような話をするときには、チャンスを与えられる女性と同じ世代の男性が、どのようなアクションをすればダイバーシティに良いかななどを議論して欲しいと思います。
- ❖ 粘土学会は幅が広く、また良い意味で堅苦しくない学会なので、その場で議論まではいかずとも知る機会を与えるのはとても良いことだと思う。
- ❖ 外にアピールする形での、学会としてのアクションプランを立ててはいかがでしょうか？
- ❖ 平等が叫ばれているこの時代に、無意識のバイアスが悪影響を与えていることに、無意識ゆえに恐ろしいなと思いました。考えが理系に偏りますが、日本の理系の女性が少ないのは高校から決まっていると思います。様々な対策を採られています、大学生に対してでは無く、高校生に対して行うべきだと思いました。
- ❖ 「無意識のバイアス」は他学会の類似企画で言葉のみ知っていたが、今回パンフレットをいただき内容を知ることができ、有り難く思います。
- ❖ 珍しい企画で、大変勉強になりました。
- ❖ 粘土学会として今回のお話をどのように吸収し次に還元していくのかが、大事だと思います。
- ❖ 女性研究員の生の声が聞けたのは良かったです。
- ❖ ロールモデルの紹介や女性とその上司、経営者といった様々な立場の視点を入れてパネルディスカッションをして欲しい。
- ❖ 考えたことがなかったので良かったと思いました。
- ❖ 育児問題と男女差別は区別して考えたほうがよい。
- ❖ ダイバーシティ、多様化のある組織は強く将来性もあるが、女性であることを意識しないようになると良いと思う。